



出野尾

豊房地区



のどかな風景が広がる出野尾地区

地域の紹介

豊房地区大戸交差点過ぎ、県道86号線右側一体に位置し、かつては海が近く迄せまっております。市内の他の洞穴遺跡とはほぼ同じ位の高さに貝塚遺跡があります。

鎌倉文化と強く結びついた中世の密教道場であった小網寺を中心とした集落で、鎮守の十二社神社から坂を下ると、弘法大師が修行したとの伝説がある、弘法谷また法華谷とも呼ばれている処に地元の人々が奉納した弘法大師像が祀られており、地藏さんの脇に「山百合」が咲き、水田が映えるのどかな風景が広がります。

里見氏の館山落城にまつわる伝説が残る「十三騎塚」、お大日と呼ばれる石碑群信仰の篤い集落の息吹が感じられる地区です。

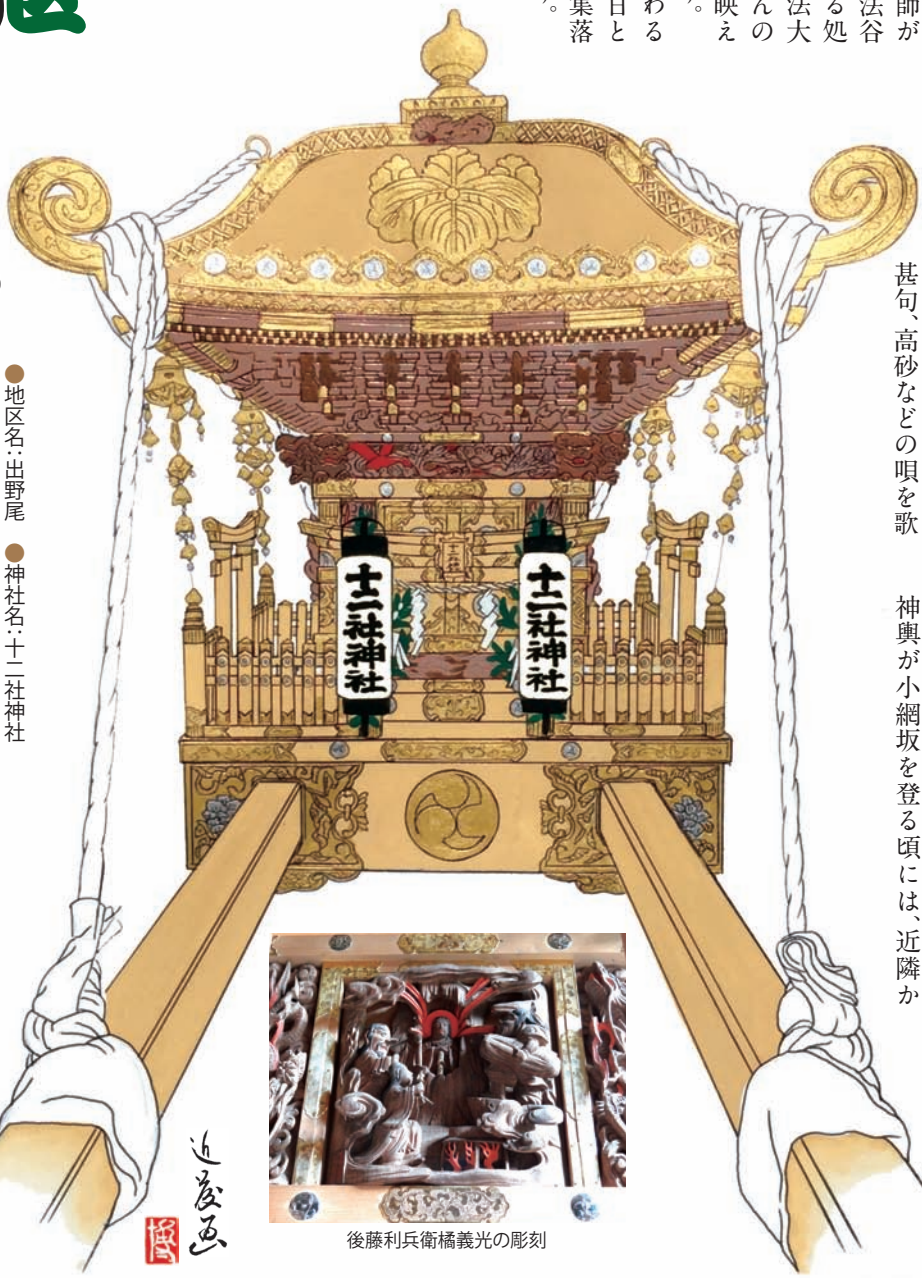
地域の紹介

自慢の祭

昔は十月十七日が例祭日でした。当時の神輿渡御においては、氏子一軒ずつを回り、狭い軒先まで入れるように担ぎ棒が今のより短かったそうです。各家で挨拶、接待を受け、渡御の終わりは明け方近くまでになったそうです。当時は屋台も出祭し、接待してくる家の前で高張提灯のまわりを、相撲甚句、高砂などの唄を歌

い、踊りを披露していました。人参、蓮、椎茸等の具をのせた手前の鮓、煮しめ、からナマス、お赤飯、茹でた落花生、湯で渋抜きした渋柿など、各家の自慢の料理が振る舞われました。その後、接待などを順番にするようになりました。現在は十月第二土曜日に挙行される例祭では古茂口、南条、大戸の各屋台とともに、豊房地区合同祭として出祭しています。

神輿が小網坂を登る頃には、近隣から多勢の助っ人で、賑合う神輿ぶり。



後藤利兵衛橋義光の彫刻

- 地区名: 出野尾 ● 神社名: 十二社神社
- 屋根: 述屋根方形一直線型 ● 葺手: 普及型 ● 造り: 白木造り
- 露盤: 枳型 ● 榿: 榿型 ● 胴の造り: 平屋台 ● 枳組: 五行三手
- 鳥居: 明神鳥居 ● 台輪: 普及型 ● 台輪寸法: 三尺四寸 ● 彫刻師: 初代後藤義光
- 先代神輿は昭和二十九年に藤原地区に売却。
- 先代神輿の彫物の一部を残し昭和四十九年に修理
- 羽目板の彫り物「天照大神」、狛犬は前後で違う



地区の皆で神輿の準備

四月中旬には「春日待(ひやり)」と呼ばれる親睦会、年に数回行う草薙、少ない氏子の人達の結束が強く感じられる谷津田のお祭りです。



神輿渡御がはじまる